

青木ヶ原樹海へ
行ってきました

お盆まつりただ中、そして
終戦記念日でもある
8月15日に
青木ヶ原樹海へ
行ってきました

えー！
正気？
なんでわざわざ
そんな日に
そんな
場所へ……
ち……
違うんです！
勇気
あるねー！
単なる
偶然！

そもそもなぜそんな場所へ行ったかというと……

最初は富士登山を
するつもりだった

富士山へ登ってきた友人たち
上から見える
雲海が
すごかったよー
一生に一度は
行くべき！
ご来光には
ホントに
感動！
人生観
変わるよー
おっしやー！
次の取材は
富士登山だ！
ね担当
T嬢？
OKです

だんだん行く気が
そがれはじめ

山小屋で密集して
雑魚寝は
カクゴすべし！
体力のない人
は途中で
リタイアも
寒い
雨がふると体力が
一気にうぼわれる
翌日は動けなく
なる
高山病
確実じゃん？
私……
体力なし
貧血
体質

さっそく
情報を
集めたよー

Mr. FUJI
富士登山
ガイドブック

そういえば
中学の遠足の
山登りでも
思い出したく
ない過去
ない過去
1人だけ
遅れを
とってたん
だよなー
ん？

富士エコツアー
青木ヶ原樹海を
中心に自然観察を
目的としたツアー。
溶岩洞窟探検も。
……これ
いいかも！

というわけで
予定変更して
青木ヶ原樹海へ

おはよう
ございます
河口湖駅

皆さん
そろいました？

富士エコツアー・サービス
富士河口湖町公認ネイチャーガイド
栗林秀旭さん
じゃ
向かいましょう

富士エコツアー・サービス
富士河口湖町公認ネイチャーガイド
栗林秀旭さん

道中
富士山周辺に
ついてのレクチャー

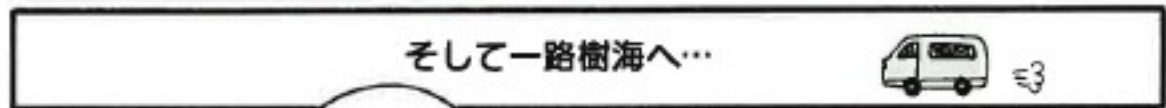
富士山は
できあがってたった
一万年の山なんです



ひとつの森が
できあがるには
だいたい数百年〜数千年
かかります

えー！

切り倒すのは
一瞬なのに……



さあ

この道路の
右側が

いわゆる
自殺者がよく
発見される
エリアね

これから行く
ツアーは左側で
こっちは安全です



言われてみると
右と左で雰囲気
違うよう……

樹海の中で
自殺者を見
られたこと
ありますか？

ありますよー

そして樹海へー



例えばほら
あそここの山は
今から二五〇〇万年前に
できたものです

あの山に比べたら
富士山なんて赤ちゃん
みたいなもので

あ、
センパイ！

氷河期も
経験してない
若造なんですよ



富士山が…若造？

何十億年もの歴史を持つ
地球に比べたら確かに
富士山なんて新生児レベル
てことは…
ワレワレ人間なんて
さらに
その赤ん坊の
皮フ表面に
とりついてる
雑菌みたいな
ものじゃないか？



続いて
青木ヶ原の
成り立ち

青木ヶ原は
一二〇〇年
くらい前

富士山が噴火して
流れた溶岩の
上にできた
森なんです

ドドーン

冷えた溶岩に
ナギ・ヤギ
とりついて…

その上に
ススキが
生え

青木ヶ原は
この段階

どの森も
共通

2千年くらいたつと
ブナが生えこく。
これが森の
最終形態。

赤松が育つ
赤松がおおいとくと
光が届かず
赤松は一代で絶える



次第に日陰に
強い木が
増えそとく





このキノコは
通称「デストロイイング
・エンジェル」
といって一本で
3人分の致死量
があります

キノコ
の神

わあ
面白い
キノコが
いっぱい！



昔におおわ
れた樹

さまざま
形の倒木

自然の造形美は
いくら見ても
見飽きない



そして洞窟の
入り口に到着

「
がけを一步下りると」
気温が下がっていく

うわー
寒いっ

暗くて見えない…

ヘルメットをかぶって
洞窟内部へ

地上と洞窟入り口では10℃以上違う



うわあ
ホントに
幽霊だ〜



内部はうす暗く
今まで行った
どの森や林とも
違う印象

目に入るもの
すべてが
黒っぽいや…

平らな部分が
ほとんどないのね

「海」というだけあって
地面は波立っている

地面も
樹も
葉っぱも



土らしい土がないので
樹の根はむき出し

殺伐…って
のともちよつと
違う

孤高？
異次元？

まるで
「この世」って
気がしない

リアルにナウシカの
世界なのだった



通称「アイスパレス」と言ってる

想像図

これは富士山の濾過された水なんです

真冬には地面の氷柱が天井のツララとつながって長くなるんですよ

洞窟を出てからこの氷を食べてみた透明で美味しかった



さてここで完全な暗闇を味わってみましょうか

「せーの」で懐中電灯を消しますよ

せーの！



すごい……目の前の自分の手が見えない

となりの人も見えない

気配がするのに見えないという状態はカラダが消えて魂だけが浮かんでいるような感じだ



そこはまっ暗闇の世界

じゃあ一列になってついてきてくださいねぇ



次の一步をどこに置いたらいいのかわからない

怖い……

痛っ！

とにかく見えないので頭をぶつけまくる



洞窟内部は冷蔵庫のようにヒンヤリしている

足元氷だからすべらないようにねー

ガイドさんによると内部はほとんど氷で覆いつくされてるんだそうだ



見えないわすべるわで足がすくむ

わっ

まるでスケートリンクだ

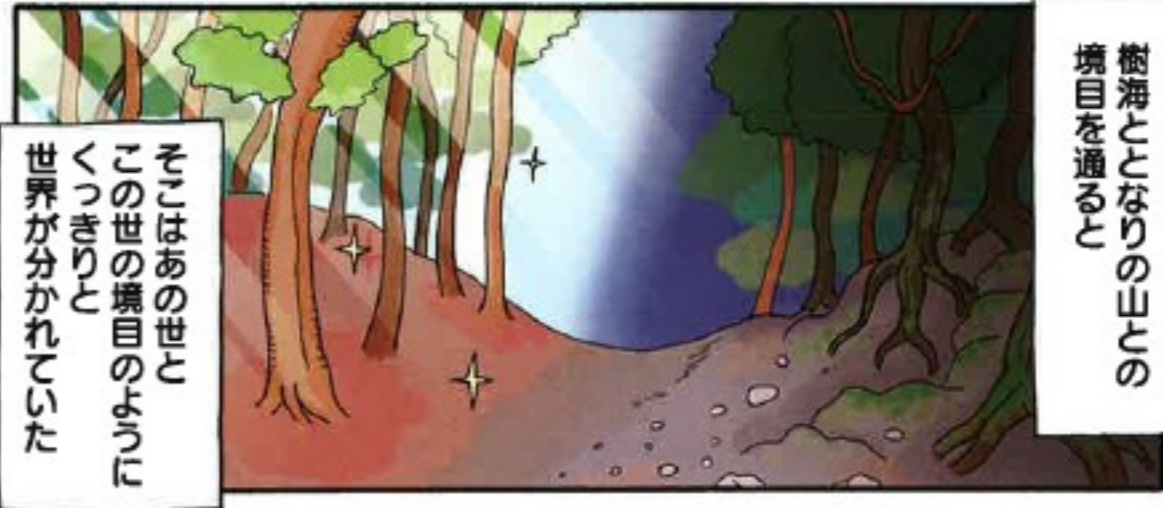
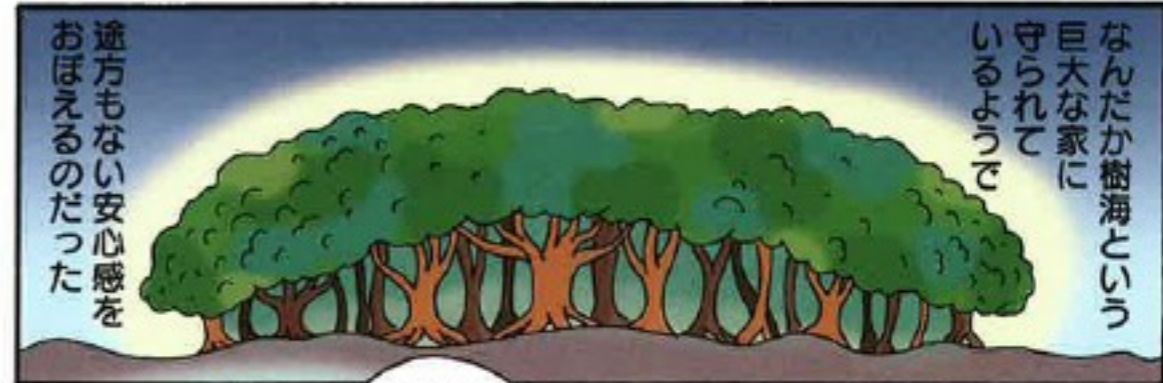
おかげで翌日ひどい筋肉痛になりました

さて……ここから先は広場になります

草間彌生の「空の群衆の中に消滅するあなた」という作品を思い出した。



ツアー後は河口湖町の温泉へ...



広げる。なるほど、それであんなガウディの芸術作品みたいなことになっているのね。

そんなアグレッッシブな樹海とは対照的だったのが、樹海のはずれに面したブナ林。こちらは人間が管理している植林で、ブナの樹が整然と並ぶ。地面はやわらかく日光がたっぷり入り、やさしい空気が漂っている。ブナ林が愛情をかけられてすくすく育った子どもなら、青木ヶ原樹海は厳しい環境を一人で生きぬいてきた野生児のようである。

訪れた日が小雨だったせいとか、樹海内はやわらかな湿気に満ちていた。むせかえるような木々の匂いを吸い込むと、肺で光合成できそう。そういえば森林浴でおなじみのフィトンチッドは、害虫に対しては毒なんだそう。人間には薬になる物質で、木々は虫を追い払う。森の成り立ちといい、ミズナラのドングリの話といい、自然の法則はひとつもムダがなく完璧に廻っている。もちろん私たち人間もその法則の一部なのだ。

自然の法則といえば、以前読んだ本(※)に興味深いことが書かれていた。一見、人間が植物を利用していろいろ、実は植物の方が種の保存のために人間を動かしているという説。えーっ、ホント?! と思ったが、青木ヶ原で見聞きしたことを思い出すと納得がいく。植物だろうが動物だろうが昆虫だろうが、みんな精一杯生きて、少しでもいい遺伝子を残したい、ただそれだけなのだ。人間以外の生き物は、全部そういう風に生きている。ふだんめんどくさいことを思い悩んでは、余計なエネルギーをたくさん使っている自分からすると、至極シンプルで憧れる生き方だ。いや、植物は植物で、「こちらら、はたから見てるほどラクじゃないんだよ!」と思ってるかもしれないな……。

※『植物はヒトを操る』いとうせいこう×竹下大学(毎日新聞社)

